第十三番　清水阿弥陀堂の御詠歌（十念調）

（きよみずの御詠歌）

松濤　基 編曲

だ ー ー ー ーーー ー ー

第十三番　山城の国　清水　阿弥陀堂

「睡眠(すいめん)の時十念を唱ふべしといふ事を」

阿弥陀仏と　十声(とこえ)唱えて　まどろまん　長き眠(ねむり)と　なりもこそすれ

（法然上人御作）

清水寺の本堂より奥の院へ行く手前に阿弥陀堂があります。法然上人は清水寺で円頓戒(えんどんかい)を説かれ、次にお念仏の教えをねんごろに勧められたのです。清水寺の沙弥(しゃみ)印蔵はこの教えを聞き、深く阿弥陀さまの御本願を信じ、ひたすらお念仏の教えに帰依されることとなりました。そして文治４年（1188）、阿弥陀堂（瀧山寺と呼ばれていた）を道場として不断念仏三昧(ふだんねんぶつざんまい)を始められました。恵心僧都(えしんそうず)御作の阿弥陀如来像が安置され、後柏原天皇（1500～1526）の「日本最初常行念仏堂(にほんさいしょじょうぎょうねんぶつどう)」の勅額が掲げられています。

題意　夜やすむ時、必ずお十念を唱えなさい。

大意　老少不定は世の習いです。何時どこでどんな事が起こってもあわてないように、平素からお念仏に励みましょう。そして夜眠る前には必ず、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏と十遍のお念仏をして眠りにつきましょう。たとえそのまま長い眠りになっても、悔いのないように致しましょう。これはお念仏を信じる人達のたしなみであります。

（楽譜は 34ページ）